

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の安心・安全・安らぎと、ご家族の安心を念頭に支援に努めています。コロナ禍で制限が多く外部との交流も不十分ではありますが、

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、令和2年5月にJR江別駅近郊から新築・移転し、幹線道路から緩やかな斜面を少し入った住宅地に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の事業所会議において理念唱和を実施するほか、職員がそれぞれ理念について発表を行い意識の統一を図り、理念を共有して実践につなげるよう工夫している。	月一回のユニット会議において、理念の唱和を行ったり、事務所内に掲示している。また、具体的なケアの方法について検討する際にも、管理者が理念を基に説明するなど、理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、自治会行事などへの参加交流は出来ていない。 毎月の広報し回覧で情報発信し、ホームに対する理解を深めていただけるよう努めている。	コロナ禍のため、地域との交流は控えているが、毎月発行の広報誌を自治会へ回覧してもらおうよう依頼するなど、地域とのつながりを継続するよう努めている。コロナ禍が落ち着いたら、様々な行事の実施を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム通信を町内会で回覧していただくことで、GHえべつを知っていただくことが出来ている。 近隣の方の入居に関する相談を何件か受け、法人内資源について伝えた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により外部の方の参加での開催は出来ていない。定期的に職員での書面会議は実施し議事録を作成している。	コロナ禍のため、外部の方の参加は控えていただき、書面会議にて開催している。議事録は、参加予定者へ郵送し報告している。頂いた意見はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	提携医であるおおあさクリニックに包括支援センターがあり、日頃から情報交換しており、認知症推進委員にも広報誌を送っている。市の介護保健課にも出向き、顔なじみの関係を築くよう努めている。	市の担当者とは、主にメールにて空き状況などの情報提供をしている。月に1回程度は、市の介護保険課の窓口へ直接出向き、顔なじみの関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開催している。身体拘束やスピーチロック等の無い様、職員間でも気をつけながら身体拘束をしないケアに取り組む姿勢でいる。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に1度委員会を開催している。身体拘束及びスピーチロックに関する内容について検討し、指針やマニュアルの見直しも行うことで、職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(株)健康会では、研修があり、月1回の事業所会議において研修の振り返りも行き、グレーな介護について話し合い意識統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のリーフレットを回覧している。解らないことは管理者に説明を求めている。また職員各々が自ら調べることも出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問を伺い、丁寧な説明で納得いただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で運営推進会議は行えていない為、意見要望を表せる機会が少ないが、ご家族様と管理者間でLINEなどを活用し意見交換は出来ており、その内容は職員にも共有し反映させている。	毎月発行の広報誌を送付したり、LINEアプリやSMSを活用し、利用者家族と意見交換をしている。頂いた意見は、ユニット会議にて職員と共有し運営に反映させるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見提案を管理者へ申し出ている。管理者はエリアマネージャーに伝え運営に反映できるよう努めている。	日常の業務の中で具体的ケアについての意見や提案を職員から聞いている。聞いた内容は管理者間で共有し検討している。また、年2回の個人面談を実施することで、職員意見を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のラダー評価面談がある。個々の働き方を尊重した環境を整えやりがいにつながるように、随時意見要望を吸い上げるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で集会での三つを避けるためリモート研修が増えた。GH内は、職員間でのレクチャーがあり、介護技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍で職員間の交流は中止されている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、不安要望を聞かせていただき、他関係各所からも情報収集し、穏やかな生活支援と関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望見学の段階から、ご家族の不安要望を伺い、問題解決に向け協力いただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の入居後1週間24時間の言動を記録しお気持ちを推察し、必要とする支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様から教わること、手助けくださる事も多く、暮らしの中で共にいろいろな家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居面談時から、共に協力し利用者様を支えていきたい旨説明している。 入居後からは日々様子を手紙やLINEでお伝えし問題解決に向け協力いただけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも感染対策を講じ外出や面会が出来るよう支援している。	感染対策を講じての直接面会が出来たり、自宅や病院への外出が出来るよう環境を整えている。また、馴染みの方や家族からの手紙をいただくなど、利用者との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ職員が介入し、良好な関係は保たれている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、手紙やお電話で経過を知る機会がある。 ウエスをお持ちいただくなど、良い関係を継続できている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺い、またはご家族の思いを伺い情報共有しより良い支援に繋がられるように職員間で検討している。	日常生活の中から本人の意向を確認したり、SNSにて家族から意向を伺い、その内容をカンファレンスで検討することで、本人の望む支援に繋がられるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報シートと日常お会話の中でこれまでの生活環境や生活歴を知るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの共同生活の中で一人一人を観察し心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子をケアプランに沿って記録しモニタリングアセスメントを行い、カンファレンスでの意見交換や医療等からの助言をもとにご家族を含めた担当者会議を経てケアプランを作成している。	毎月のユニット会議内でカンファレンスを行い、各担当者からモニタリングした内容を発表し利用者ごとに検討しており、法人内のPTと連携し生活機能向上支援も取り入れている。アセスメントは、3ヶ月ごとに行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活シートに活動状況・表情・言葉を残している。申し送り・回覧シートなども活用し職員間で情報共有し、日々の変化に気付くことが出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や医療との連携、理学療法士との協同があり、福祉用具や運動器具など柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦で、チラシ箱を作り幼稚園や地域などへお届けする活動や、自治会行事への参加など交流は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	おおあさクリニックとの連携体制は整っている。月に2回の訪問診療があり、体調の変化に合わせて医療連携を取り、ご家族とも密に連絡を取り、適切な外部医療も受けていただいている。	月に2回の提携医療機関の訪問診療があり、専門医への受診がある方は家族の対応で行っている。週1回の訪問看護で24時間体制の適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のナースラウンドは、訪問時のみならず24時間体制で相談でき、医療の指示で適切な対応が出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、資料を作成し情報提供している。入院中も入院状況を把握し、退院後のケアについても適切なケアが出来る様に検討をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りに関し入居契約時に説明し同意を得ている。独自の看取り冊子は常に目に出来る場所にあり、半数の職員は看取りの経験があり、また看取りの勉強会などを通して質の高い支援ができるよう努めている。重度化した場合は、主治医が説明し再度意向の確認をしチームで支援する。	重度化した場合や終末期については、入居契約の際に家族へ説明している。多くの職員が看取りの経験があり、看取りについての研修にも参加している。また、実施の際は連携医とも密に連絡を取りながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が常に確認できる場所に資料があり、救急時対応がスムーズに行えるよう備えている。定期的な訓練も実施されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時訓練を実施している。救急対応について日常業務の中で、気付きを話し合い普段から意識しシミュレーションするようにしている。コロナ禍で地域との連携は構築されていない。	年3回の避難訓練を実施し、備蓄の確認も行っている。日常の業務の中で、気付きについて意見交換をするなど、普段から緊急時の対応についてシミュレーションしている。	作成されたBCPを基に避難訓練を実施し、災害時に全職員が避難できる方法を身につけられるような取り組みを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な接遇研修を実施し、職員間でも好事例の共有を行い、人格尊重、プライバシーに配慮した声掛けと対応を常に心がけている。指導的声掛け、強い口調には気を付けている。	定期的な接遇研修の実施したり、管理者同士で話し合い、職員教育を行うなど、一人ひとりの人格を尊重した対応となるように常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを言動から推察し、ご希望を表出し安心して過ごしていただけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	安全第一に考え、入居者様一人一人のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴やトイレ介助等で清潔保持できるよう配慮している。起床時の更衣時、ご本人の意向を伺いながら衣類をそろえるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューと食材は外部委託だが、職員の手作りで工夫し、内容を伝え食事を楽しんでいただけるよう配慮している。 可能な方には調理や配下膳していただき、食後の食器片づけも行っていたりしている。	食材は外部委託だが、職員が調理したり、行事の時は楽しんでいただけるよう工夫して提供している。また、利用者には、簡単な調理の手伝いや配下膳など、一人ひとりの力を活かし役割が持てるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合わせて提供形態を変えて提供している。食が進まない方にはご家族の協力を得てお好みの物を差し入れしていただき提供し、必要に応じ、声掛けや介助を行い、栄養や水の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、マウスウォッシュやウエットティッシュ・スポンジブラシなど各々に適した資材を用い、口腔内の清潔保持の支援に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	目配りし、入居者様のタイミングを見極め声掛けするようにしている。	排泄状況を生活シートに記録し、利用者の仕草や行動などでトイレの声かけを行っている。必要に応じて二人介助でトイレでの排泄を促すなど、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から水分量などに気を配り、腹満状態などの観察をし、職員間で対応を検討したり、医療と相談しながら薬調整し排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	事前に入浴をお伝えし混乱の無いよう配慮している。体調も考慮し、好みの湯温設定や入浴剤の香りが入浴を楽しんで頂き、手の届かないところ、不十分な所は介助している。	週に2回の入浴を提供している。体調やタイミングに合わせて変更したり、入浴剤を使用し入浴を楽しんでいただけるよう個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調やお気持ちを考慮し、日中も居室で休息していただいたり、ゆったりとした時間を過ごしていただいている。 室温、湿度にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬確認表を利用し服用までに数名の職員での確認があり間違いの無いよう努めている。服用後の空袋は取り置きをし後日の確認が出来るようにしている。薬変更は内容作用についても申し送りにて、周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加や塗り絵など、お一人お一人の得意を見極め張り合いが持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴にお誘いするも、進んで出られる方は少ない。ご家族と自宅へ帰宅し食事を楽しむ時間を持たれる方がいる。	コロナ禍により、近くの公園への外出のみ実施していたが、コロナ感染症の緩和とともに本人や家族の希望を把握し、自宅へ外出することができるよう支援している。	花見などの季節を感じられる行事や本人希望の外食行事などを企画するとともに、利用者家族及び地域の人々と協力しながら出かけられる機会を設けられるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かっており、ご自身で使うことはない。欲しいものご希望があれば、職員が買い物代行する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族がご本人用に携帯を準備くださり預かっている方がいる。定期的にご家族から電話があり会話されている。ほかの入居者様にもお電話があった際はつないでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロアーの飾りつけを変え季節感を演出している。照明や温度湿度にも気を配り、快適に過ごすことが出来るよう支援している。	廊下や浴室、洗面台、トイレなどの空間を広くとられており、居室や共有スペースには光が入り明るい。各階に3台ずつエアコンの設置があり温度も適切に保たれ、快適に過ごすことが出来るよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席はパーテーションで区切られており、それぞれのスペースに花の写真や誕生日カード、ご家族からの手紙などが飾られている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全部屋にクローゼットが設置されており、馴染の物や写真を飾り、心地良く過ごせるような工夫をしている。湿度にも気を配り、加湿器を設置されている方もいる。	全居室にクローゼットが設置されている。ベッドは各自に好みの物の持参することが出来るようになってきている。各居室には、なじみの物や写真が飾られており、それぞれが居心地良く過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を大目標として、お一人お一人が機能を活かし安全に過ごすことが出来るように配慮している。		